



NPO法人光が丘総合型地域スポーツ・レクリエーションクラブ

「SSC光が丘」

— 2019.1.19 in 光が丘体育館 —



子供&パパ・ママ世代の「交流の場」に



DATA

- 設立 / 2002年9月10日
- 事務局 / 練馬区光が丘4-1-4 光が丘体育館内
- 活動種目 / フットサル・サッカー、キッズサッカークリニック、アクアエクササイズ、フラダンス教室、キッズフラダンス教室、小学生バレーボール、ポッチャ、チアダンス・チームLuna、キッズ・チアダンス、健康体操・マットエクササイズ、チェアエクササイズ、硬式テニス練習会

SSC光が丘は、「誰でも」「いつでも」「世代を超え」「好きなレベルでいろいろな種目」を親しむことができるスポーツクラブです。欧州では100年の歴史がある総合型地域スポーツクラブ(SSC = Synthesis Sports Club)を目指し、練馬区では区立体育館ごとに地域分けをして7つのSSCを創設しました。平成10年にスタートした当初は行政が主導する形でしたが、その後は7つのSSCがそれぞれ自立と連携を模索しながら発展してきました。「SSC光が丘」はその一つです。

会員の年代で最も多いのが子供、次いで、その親世代である30~40歳代が多いというのがSSC光が丘の特徴です。日本のスポーツコミュニティは、「学校」「企業」といった枠に縛られがちですが、SSC光が丘は地域に「交流の場」を生み出し、その枠を超えて活動しています。

明るい声子供たちを成長させる

この日、体育館2階の会議室では小学校低学年の女子を主な対象に「キッズ・チアダンス」の指導が行われ、参加者は走る・跳ぶ・バランスなど、体を大きく使って表現していました。小学校高学年から中学生までは、「チアダンス・チームLuna」での活動に移り、試合に出たり、地域イベントで応援を披露したりと大活躍しています。

体育館1階のメインアリーナでは、「キッズサッカークリニック」に子供たちが集まっていました。地域や学校のチームに所属している子、プレーに自信がないけれどサッカーが好きな子、とにかくボールを蹴りたい子など、参加理由はさまざま。コーチはそれぞれのレベルや目的を見極めて、的確な技術指導を行います。

チアダンスとフットサルに共通していたのが、子供たちを励ます指導者たちの明るい声です。専門性の高い技術指導だけでなく、スポーツを自主的に楽しめるように、子供たちの成長を手助けしている姿が印象的でした。



弾みにくいフットサル用のボールならトランプも簡単で、周りを見て速いボール運びが身につくやすい

いつかはクラブハウスを

クラブ創設時から運営に携わり、現在はクラブマネジャーを務める大熊篤理事に、これからの方向性についてお聞きしたところ、「過去にも開催していますが、トップアスリートを招いてのスポーツの普及活動を継続したいです。また、シニア向けの種目には、より一層力を入れていきたいですね。それからSSCにはクラブハウスが不可欠です。体育館がある光が丘公園は広いですから、いつかはクラブハウスを持ちたいです」と、力強く答えてくれました。

インタビュー



上野 菜実さん (キッズ・チアダンス指導員)

私もSSC光が丘でチアダンスをやっていたんです。小学6年生から中学生までは、「チアダンス・チームLuna」で活動していました。その後、進学した高校でも部活動として、卒業後はクラブチームに所属してチアダンスを続けています。地元の子供たちに指導できるのは、とても嬉しいです。Lunaは、地域を代表するチームであって、勝つことを目指すだけではなく、みんなが一人ひとり助け合って楽しんで活動するチームです。お互いのイメージを伝え合って、みんなで作り上げて、やりきる。その伝統を今後は指導者としてつないでいきたいです。



取材にご協力いただいた大熊篤理事／クラブマネジャー

詳しくはWEBでチェック!!

<http://www.nerimassc.gr.jp/sschikar/>

SSC光が丘

